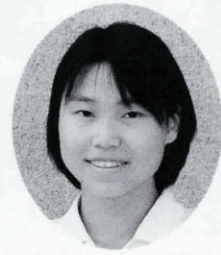


「山間部の農業」

油谷中学校三年 中原早苗



私の家では農業をしています。田んぼは雨乞山の真下にあります。小さい頃から米作りをしているところを見て育ちました。そんな中でふと感じたことがあります。それは、

「なんでこんなに不便なんだろう。」
ということ。人丸や日置の田んぼは平地で道路沿いにあるのに、私の家の田んぼは段々畑で道路からはものすごくかけ離れているのです。こんなことでは機械などを運ぶのも大変でとても重労働です。父や母もすごくえらいそうです。また田んぼの数が四十枚もあり、しかも段々畑で水持ちが悪いので一つの田に水を張るのにも時間もかかりました。だから母は、

「腰が痛い、足が痛い。」
などとよく体の苦痛を訴えています。それから収穫量も平地より少ないので、
「もっと便利だったらね。」
と言っています。

何年か前にトンネルが田んぼ周辺に通るといって聞かされたことも喜んでいました。トンネルが通れば交通の便がよくなるからです。けれど

どその話題はぬか喜びでした。私たちの田んぼからは全然近くないのでした。父も母も
「なんなんねえ。」
とがっかりしていました。こんなに不便では農業をすることはとても大変です。私も休みの日などたまに手伝いますが、筋肉痛になったりします。けれど父や母はもっともっと大変です。

しかし、私には同じ仕事をするにはまだ体力的にもキャリア的にも無理です。父や母の片腕くらいになれたらいいのと思います。またこの『不便』ということから農繁期にはケンカもあります。便利になれば少しは減るかもしれませんが。父や母も
「もうやめたい。」
と思うこともあると思いますが一生懸命頑張っています。母がよく言います。

「えらいけど、先祖から受け継がれてきたからやめられん。それに収穫した時すごくうれしいし気持ちええんよ。」
と。そう言われればそうだなと思います。それに私にとって段々畑は大きな遊び場でした。山の上の方まで登って花を採りに行ったり、走って遊んだりといういろいろな思い出があります。

最近では、農業をする後継者が減ってきています。私の家でも父や母の次に継ぐ者は決まっています。でも、将来もし交通の便がよくなったら農業もしやすくなるし、もっと農業が栄えると思います。それによって大切な思い出、やきれいな自然が失われてしまうのは嫌だけど、父や母にはもっと楽をしてほしいです。だからこれから私の願いがかなうとしたら自然を残しておくこと、そして農業をする上での便利さが欲しいです。未来にもっともっと農業が繁栄していってほしいと思います。

